



## トピックス

## 野鳥と自然ゼミナール

## 「かわいい同居人 つばめのふしぎ」

佐藤 七重

去る2021年11月27日(土)午後1時30分より3時まで、郡山市大安場史跡公園においてNPO法人バードリサーチ研究員の神山和夫(こうやまかずお)氏を講師に迎え行われ、45名の参加者がありました。

このゼミナール開催は初めてです。野鳥への関心を高めていきたく市民参加型で、郡山市文化・学び公社主催、日本野鳥の会郡山支部後援で行われたものです。

毎年春に人家の軒先に巣を作り、オスとメスの共同で餌を運ぶ姿は健気で、人間も見習うものがあります。参加者は身近な鳥だけに熱心に聞いていました。講演内容の一部を記載してみました。

①最初に河川に来て虫を食べ、その後に軒先到来となるが九州では2月末、東京3月末である。②体重比では翼が大きい。長い尾羽は降下時に開き、墜落防止する。小回りの利く構造である。足と羽をつばめ飛行するのは省エネ飛行である。巡航速度35km/h、急降下時70km/h。飛びながら水を飲む、飛びながら水浴、足は短く歩きは不得手。③餌はカゲロウ、カワゲラ、トビゲラなどの川の水生昆虫、また河原のハエ、ハチ、アブ等の陸生昆虫で2センチ以下の大きさのもの。川はツバメのレストラン。

④昨年来た親ツバメは前年にヒナを育てた同じ地域に来る。全く同じ巣に来ることはそれほどない。また、近親交配を避けるために、1歳の若ツバメは生まれた地域に戻ることはなく新天地を目指す。⑤もてるオスは、尾羽が長く、喉の赤みが濃いもの。⑥昨年ペアとなった夫婦共に戻った場合、メスが先に来ると別なオスと番になる。オスが先に来ると、10日位はメスを待つがそれ以上経過すると別なメスと番になる。(昨年一緒に育てた実

績のあるメスを選ぶ) ⑦抱卵期のメスの腹部には抱卵斑(羽毛の無い部分)ができ、卵に体温を伝えやすくする等、研究結果に基づきわかり

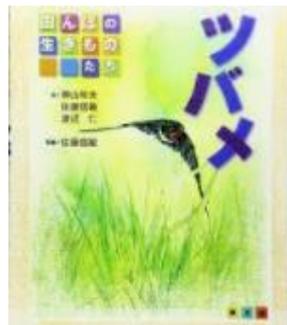


やすく話してくださいました。

郡山市内阿武隈川でのツバメの飛来時期を

観察していると毎年3月の春分の日±1日です。雪が混じる年もあり、最初は早い時期であることに驚きました。また、限られた時期にいかにつばめの子孫を残していくかを命がけで行っていることを改めて感じました。

近年、ツバメは減っています。田んぼの減少や構造の変化、併せて田んぼの生きものも減りました。田んぼの生きものを助ける冬水田んぼの重要性、ヨシ原を守りねぐらが作られること等、人とツバメの共存できる環境をいかに守るかが課題となっています。



「田んぼの生きものたち ツバメ」  
文 神山和夫 他 発行所 農文協

## ☆ 新入会員のお知らせ

齋藤賢一さん、高橋和也さんが鳥仲間となりました。よろしくお願ひします。

## 支部日誌



●2021年12月3日(金)五百淵池の治水対策工事の実施について郡山市農地課と協議。工事に伴うヨシ原の保護について検討した。熊谷副支部長参加。

●2021年12月18日(土)午前9:30~郡山支部運営委員会が開催された。①新年会を開催すること②今年度各事業の進捗状況確認③五百淵公園里山再生事業、旧豊田浄水場跡地のその後について報告④総合的流域治水対策事業について報告⑤日本野鳥の会東北ブロック大会の実施(2022年2月19日仙台市で開催。総会の実施のみ。湯浅支部長及び大河原事務局局長参加) ●2022年1月26日(水)午後1:30~五百淵公園の里山再生事業にかかる説明会が開催され、郡山市公園緑地課、アジア航測担当者、郡山支部会員等9名参加。整備内容(案)について協議した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、新年会は(今年も)中止となりました。